

矢吹町史

第3卷

資料編II



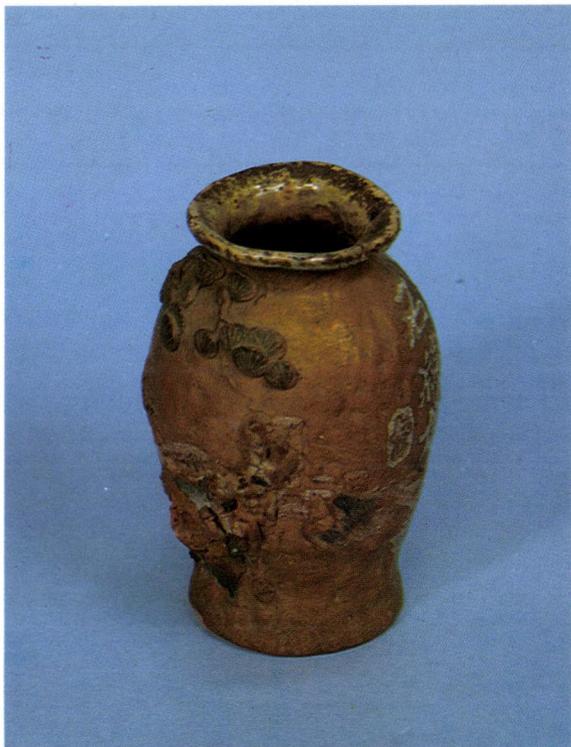
牡丹の絵 酒井抱一筆 (中畑 小針頼晴家蔵)



中畑陣屋代官松平軍次郎康済の歌 (中畑 小針頼晴家蔵)



農業の絵図くその二 (大池 石川与志栄家蔵)



石綿焼（神田 藤井ハル家蔵）



絵紙
(中町 円谷重夫家蔵)

二よみ (中畑 岡崎長成家蔵)



絵紙 (中畑 岡崎長成家蔵)



レッテル (中畑 岡崎長成家蔵)



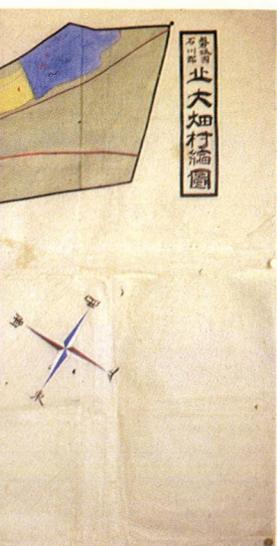
絵紙 (中畑 岡崎長成家蔵)



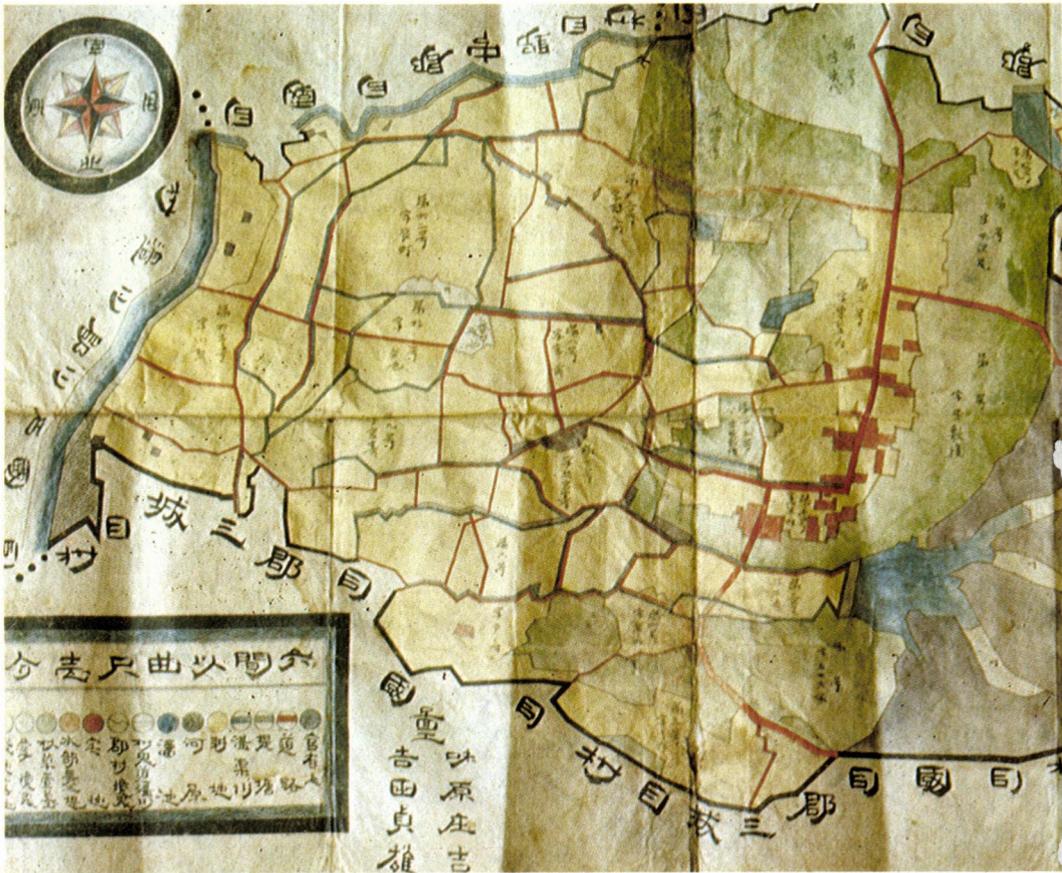
レッテル (中畑 岡崎長成家蔵)



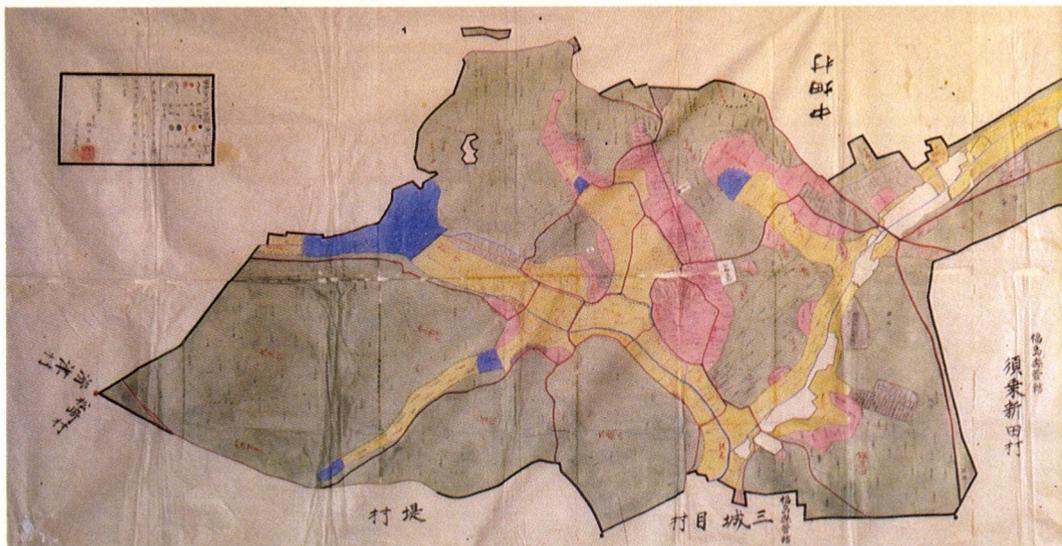
大正五年 三神村全圖 (須乘 酒井正敏家藏)



大正十三年 中畑村全圖 (町有)

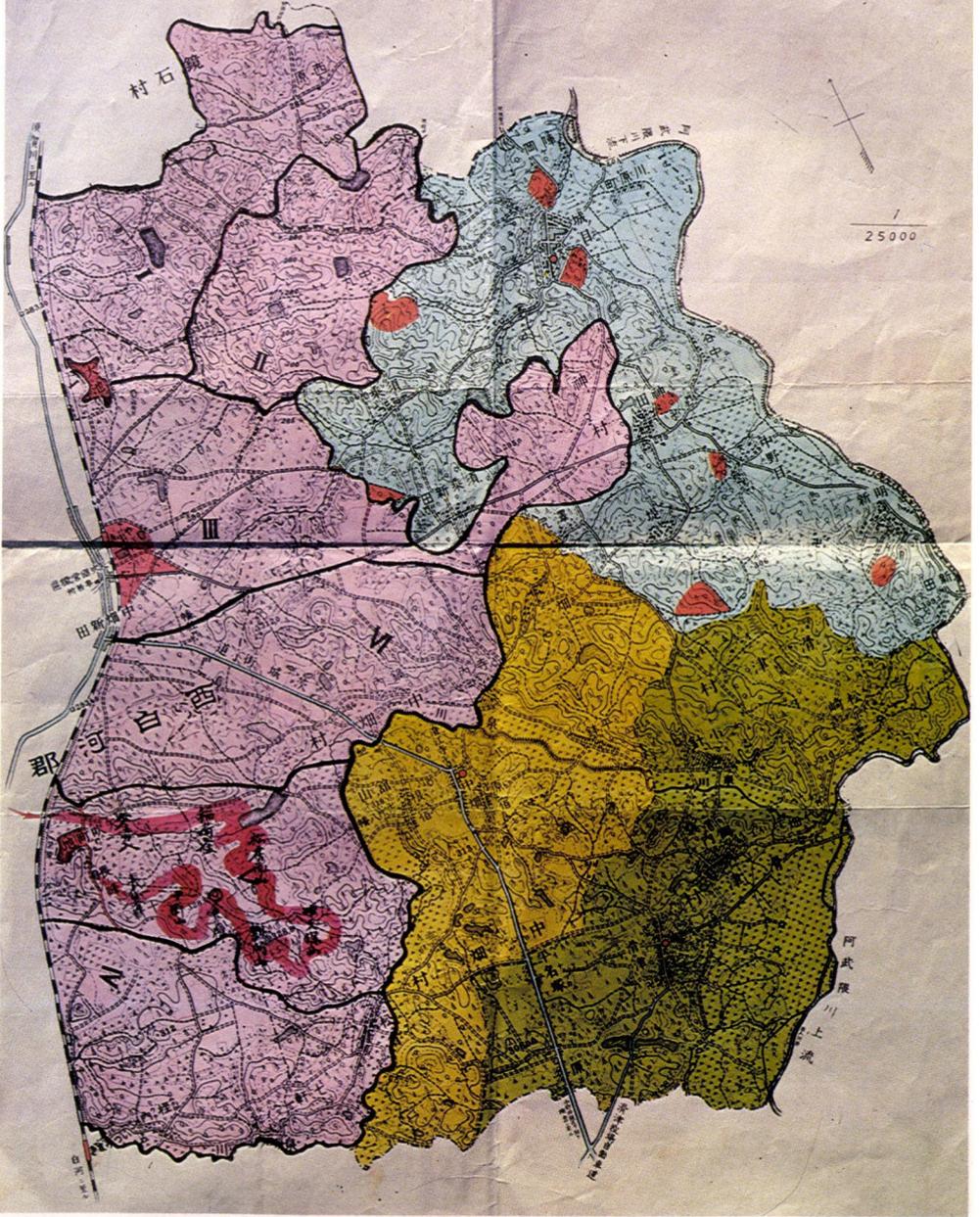


明治二十六年 神田村全図 (神田 藤井ハル家蔵)

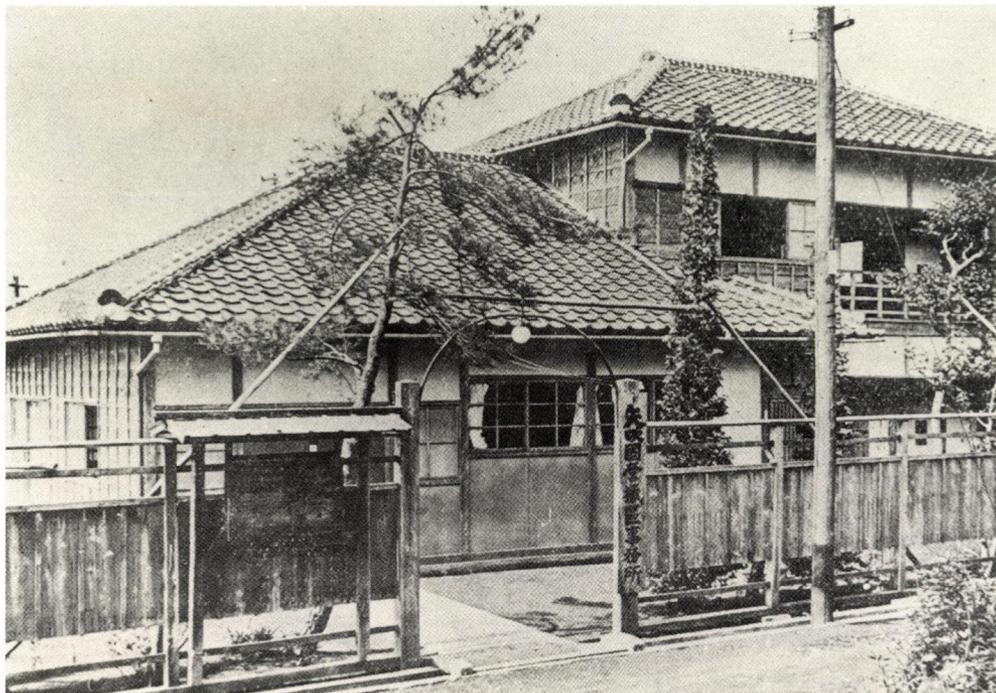


明治七年 大畑村縮図 (大畑 青木政義家蔵)

福島縣矢吹國營獵區及中畑・三神・滑津村營獵區地圖



国営獵区及び中畑・三神・滑津村營獵区地図 (本町 仲西正次家蔵)



矢吹国営猟区事務所（矢吹町小松地内）



雉子塚



御獵場碑



御獵場職員集会所碑



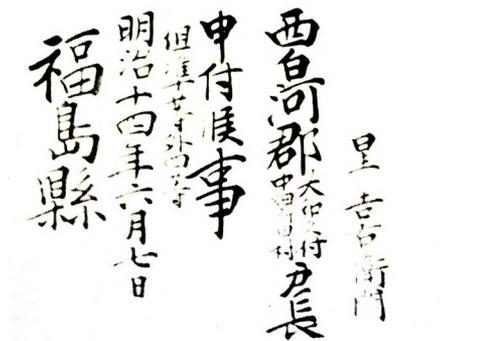
白河県庁 定
(神田 藤井ハル家蔵)



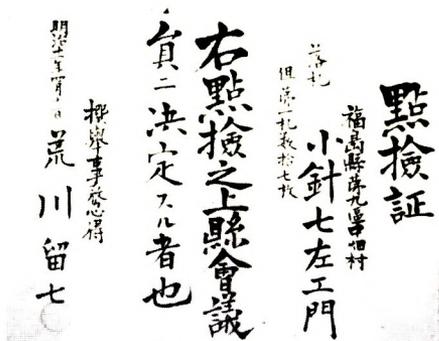
高田県出張釜子庁の達
(中野目 円谷善人家蔵)



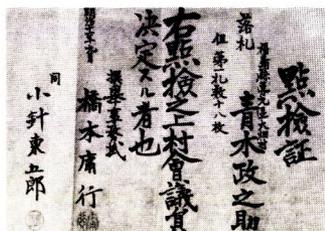
磐前県庁戸長辞令
(大畑 青木政義家蔵)



福島県戸長辞令 (大和久 星信之助蔵)



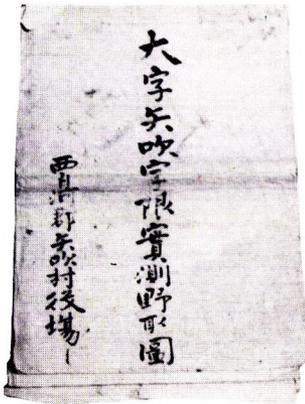
県会議員点検証 (中畑 小針頼晴家蔵)



村会議員点検証
(大畑 青木政義家蔵)



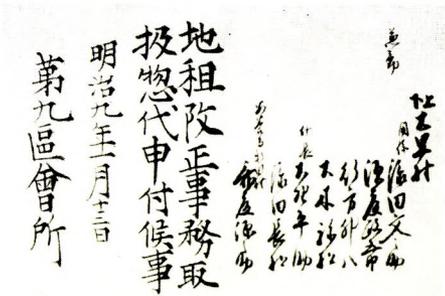
白河県監察局印
(須乘 酒井正敏家蔵)



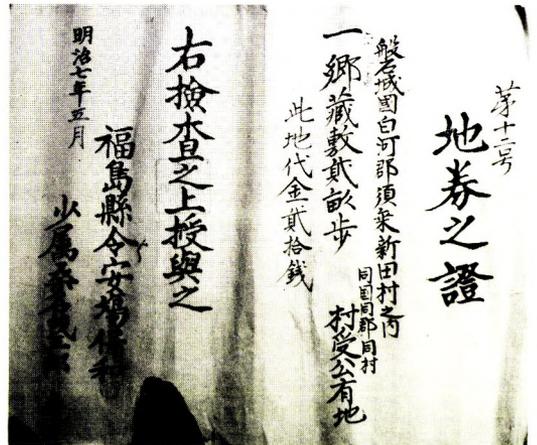
字限實測野取圖(町有)



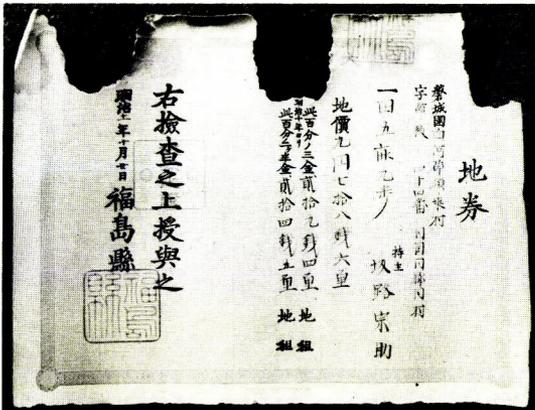
地籍圖(町有)



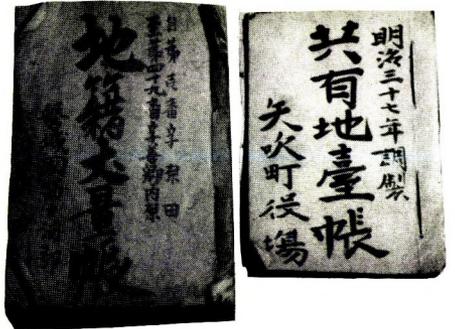
地租改正事務惣代申付
(天栄村 添田文太郎家藏)



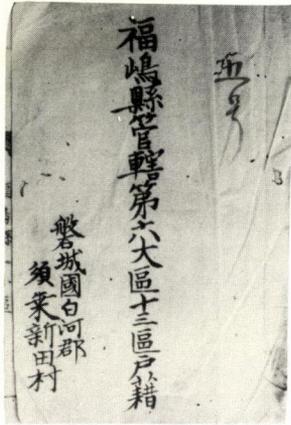
地券之證(須乘 酒井正敏家藏)



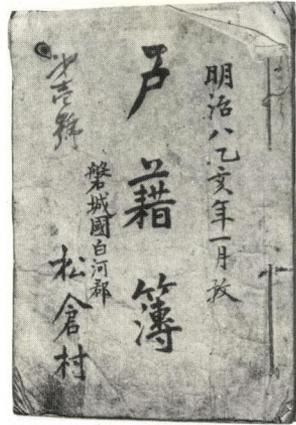
地券(須乘 酒井正敏家藏)



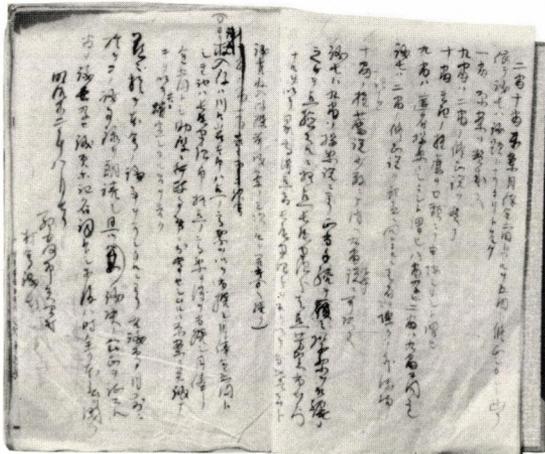
地籍丈量帳(町有)



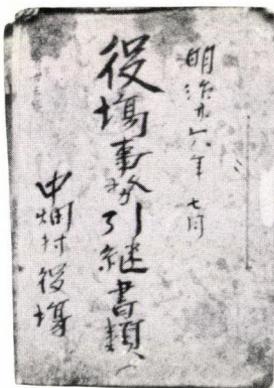
戸籍 (須采 酒井正敏家藏)



戸籍簿 (法務局保管)



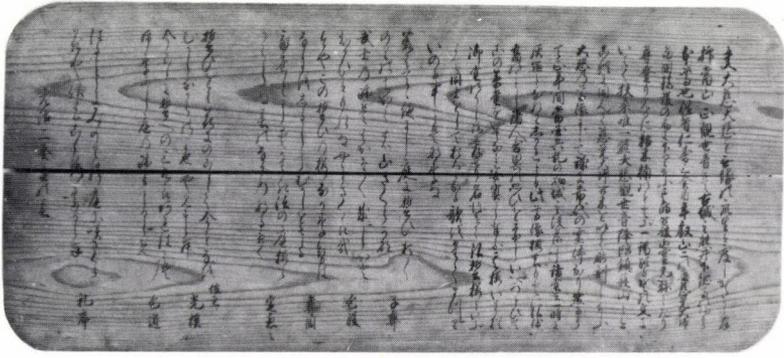
明治二十二年矢吹村最古の議事録 (町有)



事務引継綴 (町有)



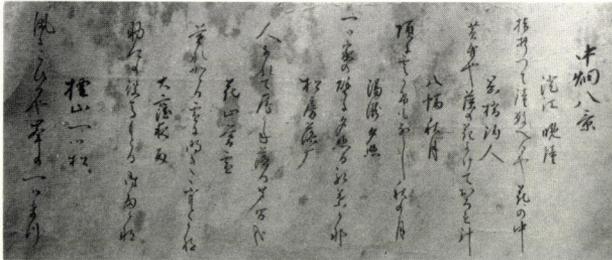
中畑村・三神村簿冊 (町有)



句 額 (根宿 観音堂)



句 額
(三城目 御霊神社)



中畑八景
(中畑 小針頼晴家藏)



薬師堂 (中畑原宿)



秋五題 (中町 円谷重夫家藏)

発刊のことば

矢吹町教育委員会教育長
矢吹町史編纂委員長
小林重孝

待望して俟なかつた史資料の近代編として第三巻が愈々発刊の運びとなりました。"ローマは、一日にして成らず"とは西洋のことわざですが、何事によらず一朝一夕にして成るものではなく、わが町史の事業も昭和四十八年一月発足来満五年有余の歳月を経て今日にいたりました。

既に申し上げておきましたが、史書の編纂程むずかしいものではありません。それは常に史実に基づき、史実を浮き彫りにする史書の編纂でなければなりません。科学的な真摯な追求の中からのみ生れるものです。ことにわが町史については、過去においては一度もその経験もなく、今度が初めてのことであるからであります。

この編に納められる内容は、主として明治以降の資料で、一見時代が新らしく、且つ資料も比較的多く保存されているが如く感じられますが、この期間は国の内外共に、政治・経済・文化の激動期であり、とくに第二次世界大戦後の社会情勢は、新旧あらゆる面での価値観の相違から貴重な資料の損壊或は散逸などもあり、これが収集・整理・抄外などに当られた町史編纂室、更には他に勤務をもち乍ら執筆などに当られた専門委員の方々の並々ならぬ御努力に対しまして、敬意を表すると共に心からなる感謝の誠をささげるものであります。

また、編纂事業に絶大な御協力、御援助下さった方々に深甚な感謝を申し上げます。

最後にこの町史が多くの方々々に愛読され、町発展のよりどころとなり、大きく役立つことを期待いたしましてご挨拶いたします。

昭和五十三年九月

目次

口 絵
凡 例
発刊のことば

矢吹町教育委員会教育長
矢吹町史編纂委員会長

小林重孝

第四編 近世 3

8 交通 5

(一) 宿 駅 (5)

(二) 廻 米 (28)

(三) 助 郷 (38)

(四) 水 運 (143)

9 寺 社 207

10 文 化 236

解 説 275

第五編 近代 I 277

一 政 治 279

1 町村制の変遷 279

2 地 租 369

3 行 政 416

4 財 政 477

二 産業・経済

1	調査・統計	509
(1)	土地	(509)
(2)	物産	(516)
(3)	人口	(540)
(4)	その他	(556)
2	御料地と御猟場	558
3	矢吹原開拓	656
4	農業	725
5	馬産・その他	776
6	商工業	826
7	交通・通信	877
	解説	927
	所載資料目録	937
	資料提供および協力者	968
	矢吹町史編纂関係者	971

題字／矢吹町長 仲西藤次
装幀／宗像喜代次

凡 例

一、この巻は、「矢吹町史」第3巻 資料編Ⅱである。第四編近世、8 交通、9 寺社、10 文化（第2巻資料編Ⅰに紙頁の都合で掲載できなかった部分）と第五編近代で構成されている。

二、第五編近代は、戊辰戦争を経ての明治初年から、昭和二十年八月十五日前後までとした。

三、第五編近代は、「政治」「産業・経済」「教育・文化」「社会生活」の大項目に分け、さらに、中・小項に分けた。

四、第五編近代は、本巻の紙頁の関係でやむなく、「政治」「産業・経済」までとし「教育・文化」「社会生活」は、第4巻、資料編Ⅲに集録することとした。

五、第4巻、資料編Ⅲは、第五編近代「教育・文化」「社会生活」と第六編現代の資料を一括して集録し続刊する。

六、編集に当って各編とも次の通りとした。

(1) 資料の採録は、原則として原本によるものとしたが、一部「福島県史」「福島県教育史」「国見町史」などから引用させていただいたものがある。

(2) 個別解説は、紙頁の都合で困難となったので、最低必要部分にとどめ、前後の関係など読者に不明な部分などについては注を付した。

(3) 各編ごとに、各資料に通し番号と標題を付した。表紙のあるものについては、標題のあとに次のように記した。

（表紙）

1

L

(4) 各資料の末尾には、所蔵者名、出典などを「」内に記し、綴簿冊刊行本の場合は「」の内にその名称を記した。

(5) 変遷・統計など数種の原資料から編者が一覧表などにまとめたものは、その出典など末尾に明記した。

(6) 各編ごと末尾に解説を付したが、第四編の8交通、9寺社、10文化の項については、第2巻資料編Ⅰの第四編解説の中に含まれているので、資料編Ⅰを参照されたい。

七、資料の集録については、次の点に留意してつとめて原資料にそうようにした。

(1) 異字・異体は、原則として正字に改め、当用漢字のあるものはそれによった。

(2) 文意の通じないもの、あるいは誤字、当て字と思われるものには右側に(ママ)と付し、疑問の箇所には(カ)を付した。

(3) 欠損箇所で判読できない部分については、□あるいは□□をもって示し、原資料の一部を欠くものについては、(前欠)・(後欠)・(欠)と記した。

(4) 紙頁の都合で関係の薄い部分を省略した場合は(略)と記した。

(5) 印章は、角印、丸印は⊕とし文字にかかる印章は⊙、判読できる印章で必要と思われるものについては⊖とし()の内に印文を記した。

(6) 原資料になく、編者が記入した、注、付記などには()「」を付し、原資料と区別した。

八、本巻発行にあたり、資料所蔵者及び資料調査協力者の方々に深く謝意を表するものである。